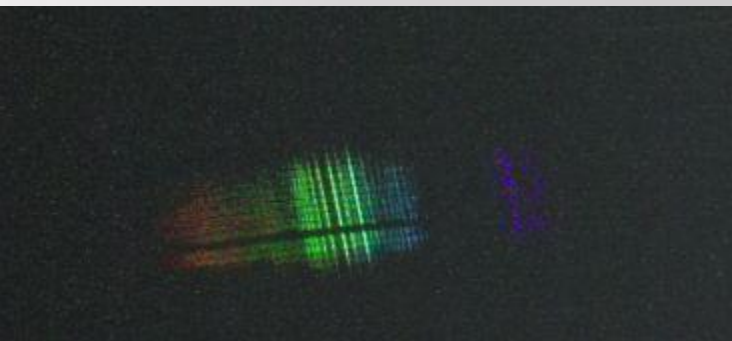



鉄流星スペクトル

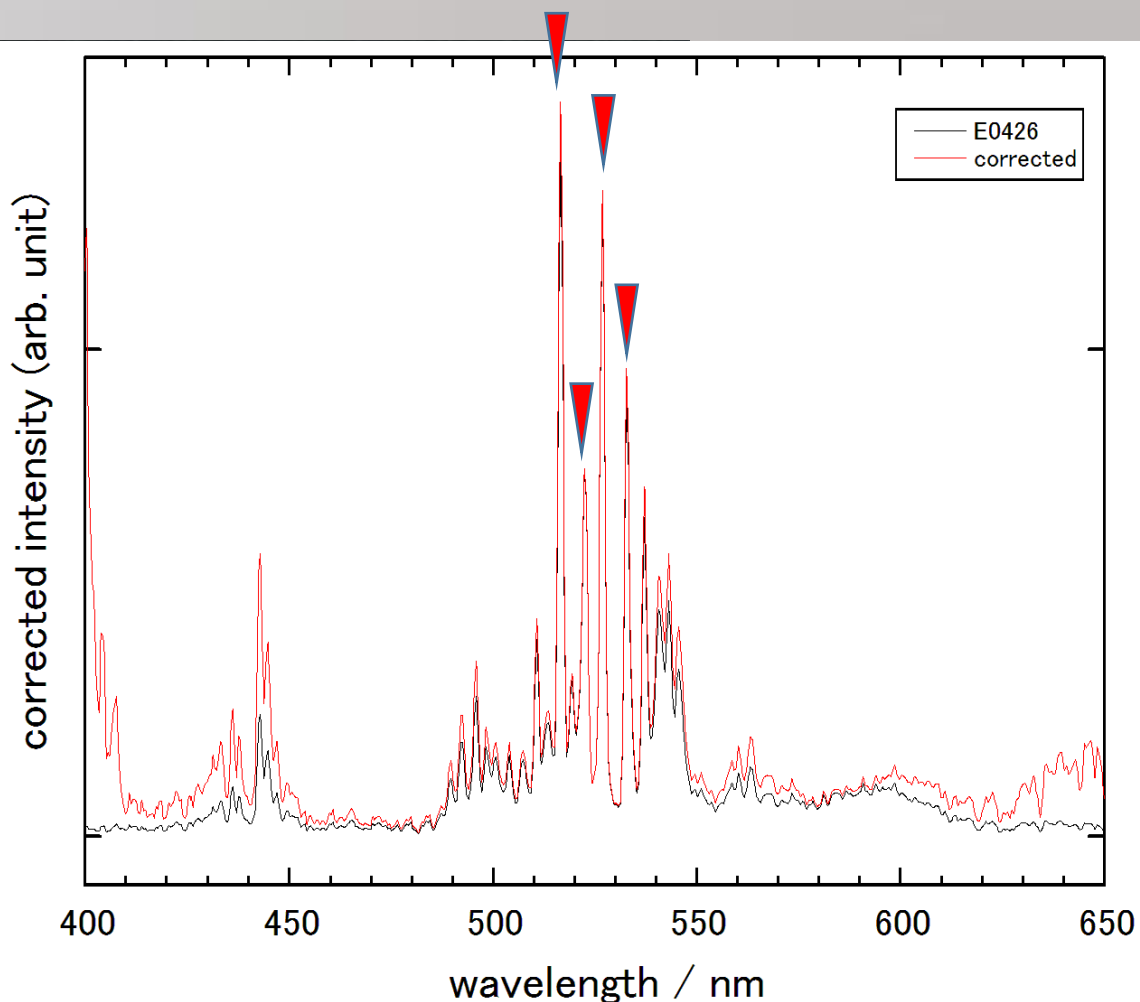


2016年2月7日 01時37分07秒
-0.9等 散在 0.57秒

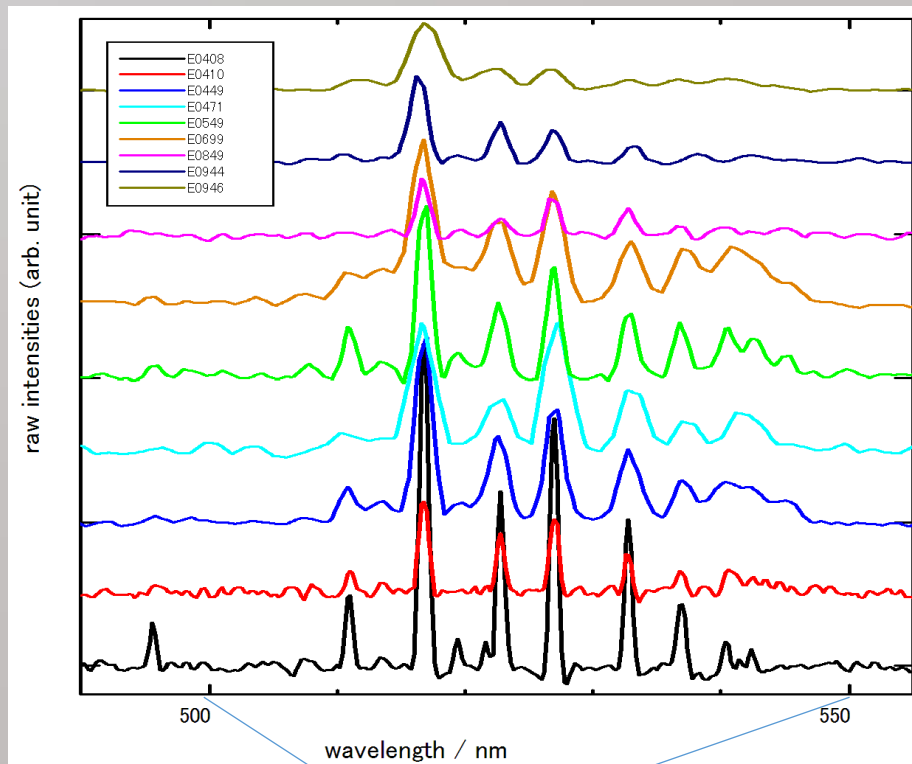
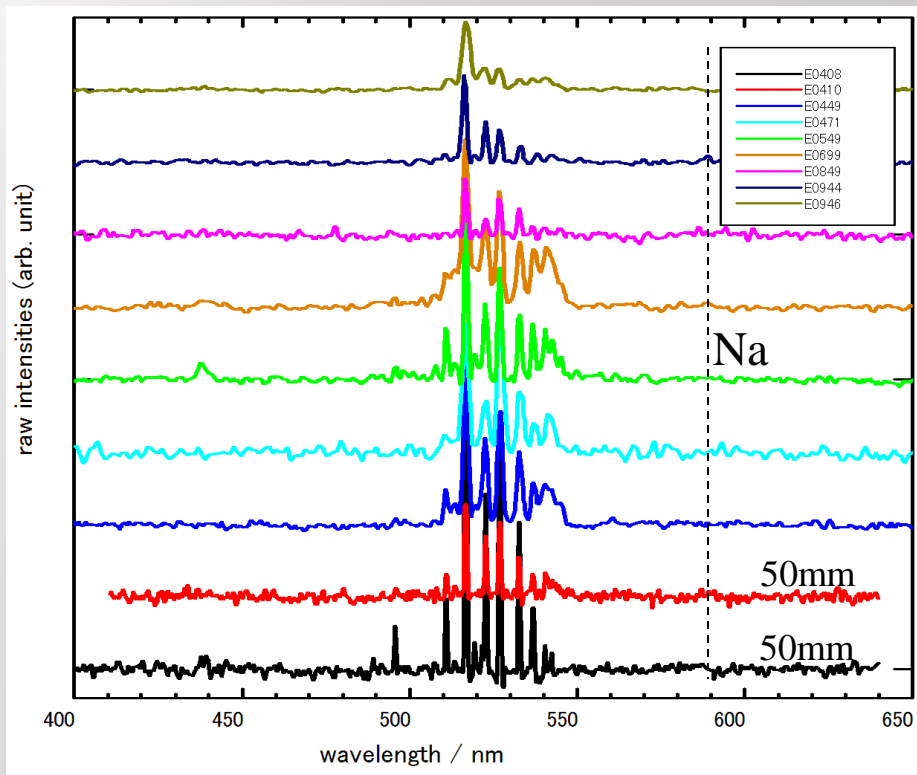
Fe I ( : 516.8, 523.3,
526.9, 532.8 nm) で

波長あわせ

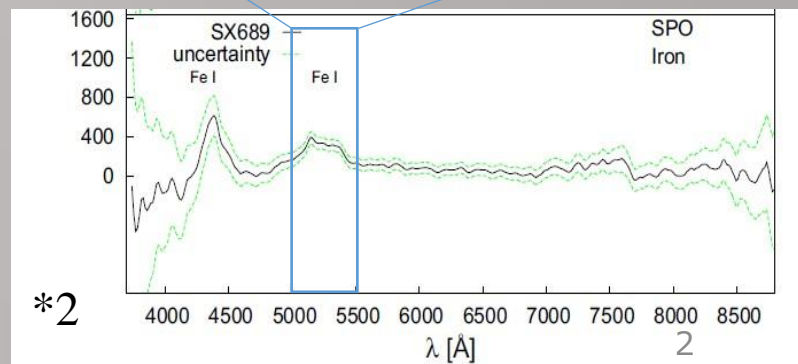
右の赤い曲線は、装置の波長
感度を補正した結果



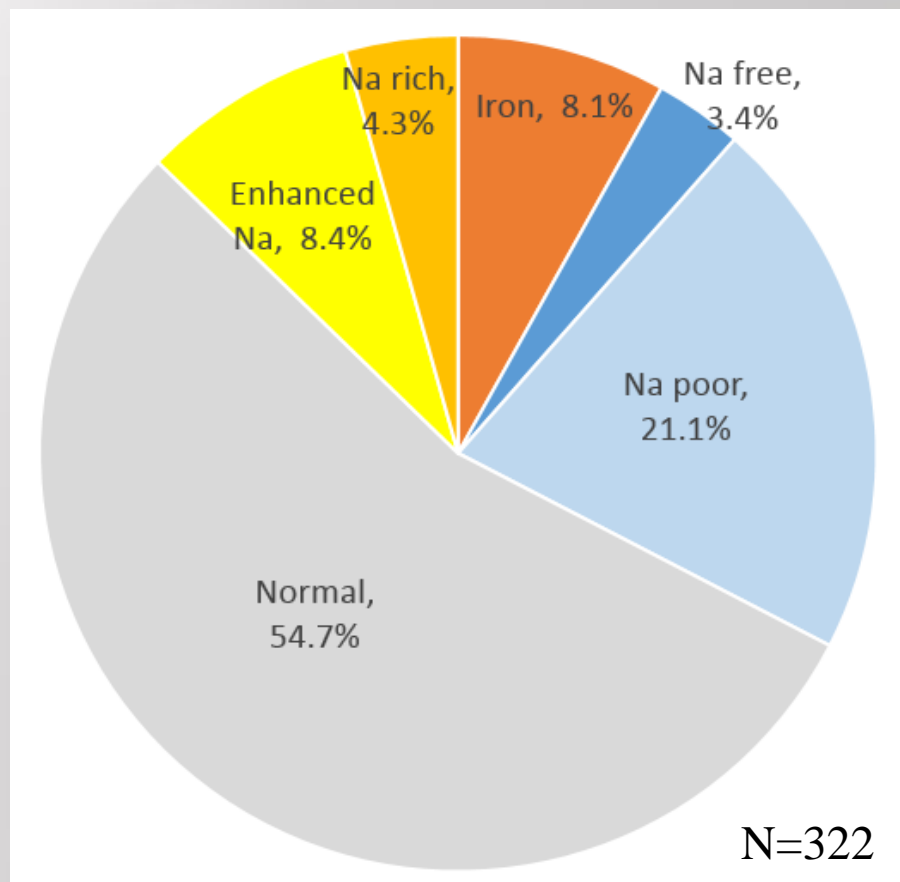
鉄流星スペクトル比較



- これまでの観測より分解能が高い
- Mg と Na (589 nm) は、ほぼ0
- スペクトル形状は、どれもよく一致



鉄流星は散在の8%

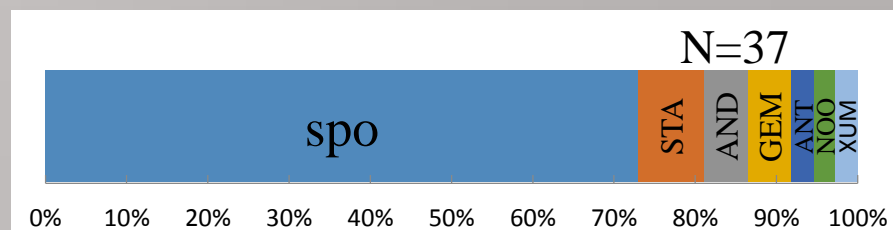


散在流星に対する各タイプの割合

全スペクトルの4%
分類可のスペクトルの6%
散在の8%

- Borovicka の割合 (7-14%)
とよく一致

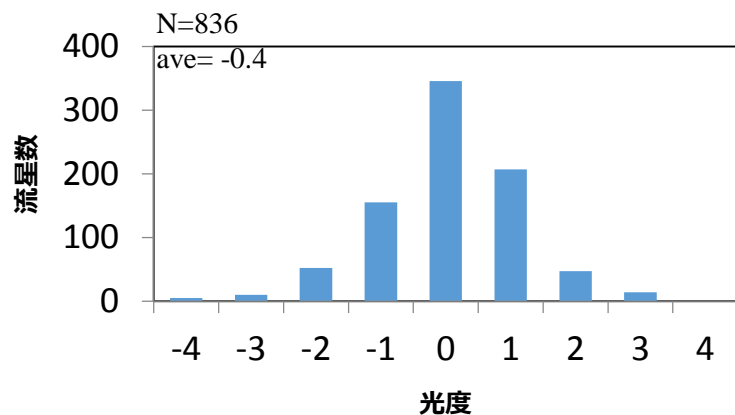
群/散在比



散在は73%だが、群流星にもある
群判定の問題か？

鉄流星は暗い

スペクトルの光度分布

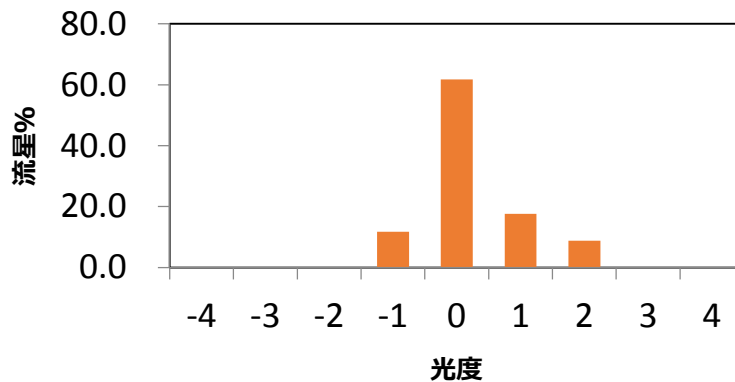


平均光度

全流星：-0.4等

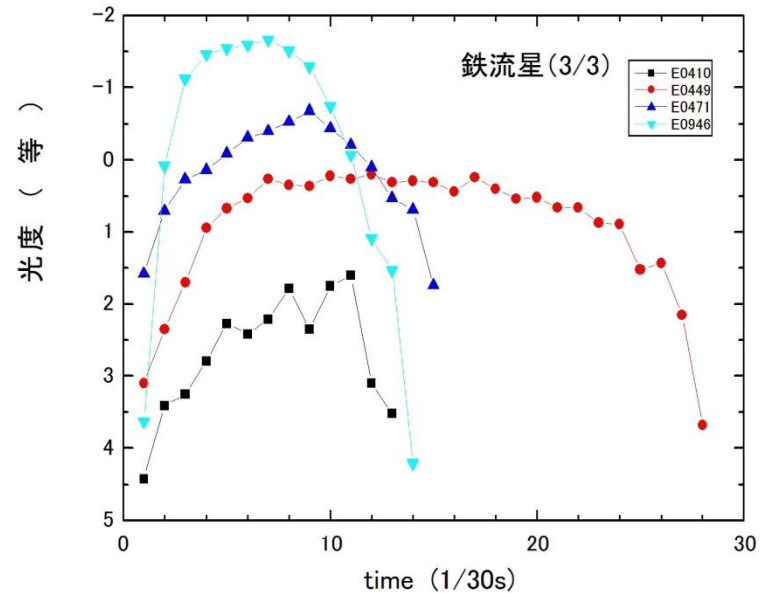
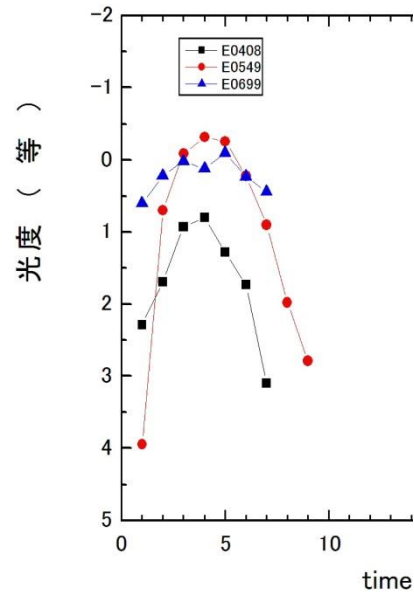
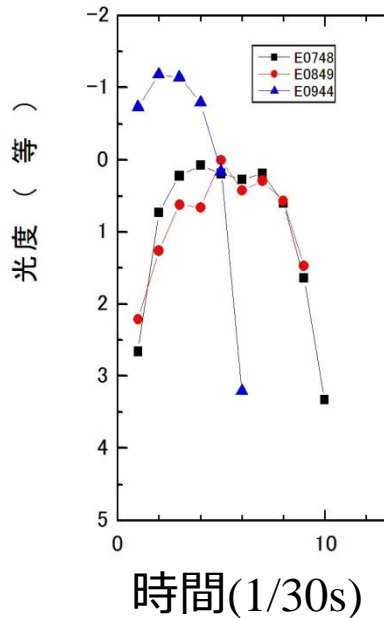
鉄流星：-0.15等

鉄流星の光度分布



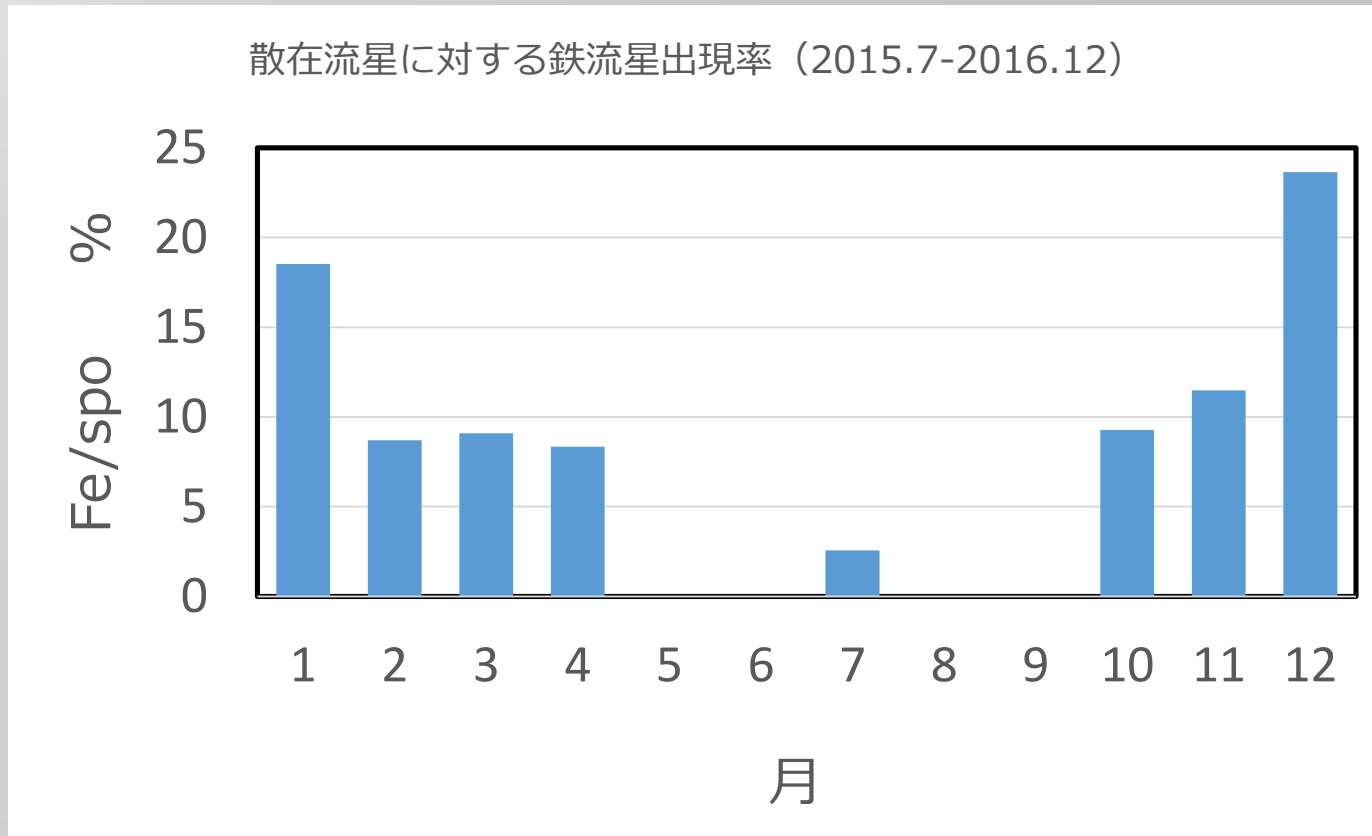
明るい流星が少ない印象

鉄流星ライトカーブ



- 急増光してゆっくり減少タイプは少ない
- 極大が明瞭でなく高原状のタイプは多い

鉄流星は冬に多い



- 散在流星に占める鉄流星(散在)の割合は1月、12月に高い
→ 冬は透明度が高く、暗い流星まで写りやすいから？

鉄流星の特徴(まとめ)

- 鉄以外のスペクトル線は、ほぼ見えない
スペクトル形状が同じ
- 暗い流星が多い
- 冬の時期に多い
- 散在流星と言われていたが、群流星からも見つかった(?)

ご静聴ありがとうございました。